

研究主題 **豊かに生きる力の育成**
～自分を知り「なりたい自分」に近づくキャリア教育の実践～

1 **題材名** 「いろいろなひびきを感じ取ろう」
教材名 「リボンのおどり(ラ バンバ)」

2 **題材の目標**
 曲想と音色やリズム、旋律の特徴、音の重なりなどとの関わりを理解し、互いの楽器の音の重なりを聴き合いながら演奏する技能を身に付け、パートの重ね方や楽器の演奏の仕方を工夫し、思いや意図をもって演奏する学習に主体的に取り組む。

3 **本題材の評価規準とキャリア教育を通して育みたい力（評価規準マトリクス）**

高学年の基礎的汎用的能力（夢4）		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人や社会と かかわる力  【人間関係形成・ 社会形成能力】	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場に立って考え、思いやりをもって行動する力 相手と関わりながらよりよいものを創り上げようとする力 	①互いの楽器の音の重なりを聴き合いながら演奏している。	①パートの重ね方や楽器の演奏の仕方を工夫している。 ②どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	
自分を みつめる力  【自己理解・ 自己管理能力】	<ul style="list-style-type: none"> 自分の長所短所を理解し、自分らしさを発揮する力 自分と異なる意見も理解しようとし、積極的に交流する力 		③各楽器の音色、各声部の重なりや響きなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取っている。	
課題を やりぬく力  【課題対応能力】	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して自分に今何ができるのかを考え、計画、実践する力 情報や情報手段を主体的に選択し、活用する力 			①楽器の音色やいろいろな音が重なり合う響きに興味・関心をもっている。
次に つなげる力  【キャリア プランニング能力】	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶこと働くことの意義を理解する力 将来の夢について考え、実現に向けて設計、行動、改善する力 	②曲想と音色やリズム、旋律の特徴、音の重なりなどのかかわりを理解している。		②パートの重ね方を工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。

※キャリア教育と関連が密接なものは**ゴシック体・太字**

4 部会提案

(1) 児童の実態と題材観

5年生に進級し、高学年の仲間入りをして一か月が経った。新しい環境にも少しずつ慣れて、落ち着いて学習活動に取り組んでいる。たくさんの楽器を使う合奏では、多くの児童が意欲的に個人練習に励むことができている。しかし、自分のことで精一杯になっているため、仲間と合わせて一緒に音楽を紡ぎ出す意識が全体的に低い傾向にある。

本題材は旋律が何度も繰り返されるため、それぞれ楽器ごとの音の重ね方、曲の速度、音の強弱の工夫がしやすくなっている。楽器表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら曲の特徴にふさわしい表現を工夫させることができる。また、いろいろな楽器の音が重なり合う響きを楽しむためにはどのように演奏をするとよいか自分の考えをもたせられると考える。

キャリア教育の視点では、「人間関係形成・社会形成能力」を中心に捉えている。本教材を通じて相手の立場に立って考え思いやりをもって行動し、より良いものを創り上げようとする力を伸ばしたい。

(2) 高学年の目指す児童像

実現 (realization)

努力を重ね、「なりたい自分」に近づく子ども

(3) 目指す児童像を実現するための手だてと関連する夢4

<p>【手だて1】：議論や音楽作りの活動（＝努力）を豊かにするために</p> <p>○話し合いの流れを提示する</p> <p>話し合い活動に重点を置くため、話し合いのポイントと4つの音の重ね方の例を提示した。話し合いの進め方に見通しをもち、音の重ね方のイメージが共有できていると、児童の活発な意見交換を促すことにつながる。円滑に進められる話し合いを積み重ねることで人間関係形成の力を育むことができると考えた。</p> <p>○試奏の時間を十分に確保する</p> <p>全員が楽器を使用すると児童自身が出した音が聞き取りにくいいため、普段はグループごとにローテーションをして試奏している。今回は教室を2つ用意し人数を分散させ通常の2倍の活動時間を確保することにした。児童が自分で考えたイメージの音やリズムをすぐに試奏できることで、グループ目標にも近付くことができると考えた。</p>	<p>【夢4】</p> 
<p>【手だて2】：見通し（＝「なりたい自分」）をもって活動に取り組むために</p> <p>○演奏の難易度とパート重要度を提示する</p> <p>鍵盤ハーモニカ以外の楽器である木琴・鉄琴・バスマスター・打楽器は合奏以外ではほぼ使用しない。普段はあまり使わない楽器は魅力的なのでその楽器を使用して演奏したがる児童は多い。しかし、実際にその楽器を使って楽譜を見ながら演奏すると、音符が読めずに演奏できない児童がたくさんいる。事前にそれぞれの楽器の演奏の難しさを提示することで、児童が楽器を選ぶ際の判断基準になる。さらにパートの重要度を示すことで自分がやりたいという気持ちだけでなく、グループ全体で考えたときの自身の役割を考えさせることができると考えた。</p>	<p>【夢4】</p>  

5 指導計画 (全5時間)

		学習内容	主な学習活動	◆指導上の留意点	【評価規準】 基礎的・汎用的能力
学習課題をつかむ	1	曲の雰囲気を感じ取り、音やリズムをつかむ。いろいろなパートの音を確認し、全体で合わせて合奏を行う。	○範唱を聴き、曲全体の感じをつかむ。 ・感じた雰囲気を友達と共有する。 ○音やリズムに気を付けて演奏をする。 ・階名唱をし、音やリズムをつかむ。 ・各パートを鍵盤ハーモニカで演奏し、音を確認する。	◆感じ取った曲想を言語化できるように、言葉をいくつか掲示し、選択できるようにする。 ◆ <u>全員で音を合わせる意識をもたせる。</u> ◆ <u>次時から鍵盤ハーモニカで練習したことを生かして楽器で演奏することを伝える。</u>	【主①】 
	2	音の重なり合う響きを感じ取る。	○楽器を用いて合奏をする。 ○様々な音の重ね方の例を知る。 ・それぞれの重ね方を楽器で演奏し、音の重なり合う響きのイメージをもつ。 ○グループの確認を行う。 ○グループでパート割を行う。	◆掲示物を用意し、視覚的に重なりのパターンを理解できるようにする。 ◆いくつかのパターンを全体で共有し、試奏することで学習活動の最終的なイメージをもたせる。 ◆ <u>ワークシートに各パートの難易度と重要度を記載しておく。</u>	【知・技①】 【主①】  
高める	3 (本時)	どのような重ね方で演奏したいかを、思いや意図をもって考える。	○グループの目標を考える。 ○楽器を試奏しながら音の重ね方を考える。 ○発表時の見通しをもつ。	◆ <u>リーダーを中心に班で話し合いをさせる。</u> ◆ <u>様々な楽器の組み合わせを試奏させ、グループで話し合いながら音楽を作らせる。</u> ◆合わせた音の響きを聴き取りやすくし、活動時間を確保するために第一音楽室と第二音楽室の二ヶ所に分かれる。	【思・判・表①③】   
	4	重なり合う響きの面白さを生かし、思いや意図をもって表現の工夫をする。	○試奏や話し合いを通して、グループごとに音の重ね方や演奏の工夫を考える。	◆使用する用具や演奏の仕方による音の違いを感じ取らせる。 ◆音色や強弱に注目するよう伝える。 ◆ <u>グループ活動での各パートの重要性を伝える。</u>	【思・判・表②】 【主②】  
	5	グループで工夫した「リボンのおどり」を発表し合う。	○グループごとに音の重なり合う響きを感じ取りながら、演奏する。 ・互いに聴きながら、音を合わせて演奏する。 ・他班の良かったところを見付ける。	◆ <u>グループで考えた音の重ね方を友達の前で発表させる。</u> ◆他班の演奏の工夫による響きの違いや、演奏のよさを視점에鑑賞させる。	【知・技②】 【主②】 

※波線はキャリア教育の視点

6 本時の学習（5時間扱いの3時間目）

(1) 本時の目標

グループで話し合い、試奏をしながら音の重ね方を考える。

(2) キャリア教育の重点

◎リーダーを中心にグループで話し合いながら音楽を作る活動を通して、相手と関わりながらよりよいものを作り上げようとする力を育む。【人間関係形成・社会形成能力】

(3) 展開

段階	学習活動	教材, 教具, 学習形態	指導・支援 (○) 評価 (●)
導入 10分	1 前時の確認として、自分のパートを個人で練習する。	【個人】 ・楽器	○グループでの活動が円滑に進むよう、楽器をもちいて自分のパートを確認させる。
	2 前時までの活動を振り返り、本時のめあてを確認する。	【全体】 ・ワークシート	
グループで相談し、音の重ね方を考えよう			
展開 25分	3 グループの目標を考える。 ・協力して音を合わせる。 ・聴いている人が楽しめる演奏にする。	【グループ】 ・ワークシート	○主体的にグループに関わられるように、リーダーを中心に話し合いをさせる。 
	4 楽器を用いて試奏しながら、音の重ね方を考える。 ・メロディーのパートから「だんだん大きく」方式で重ねていきたい。 ・それぞれの楽器が目立つように「リレー」方式にしたい。 ・鉄琴の伸びる音と木琴のはずむ音を組み合わせよう。	【グループ】 ・楽器 ・ワークシート	○合わせた音の響きを聴き取りやすくし、活動時間を確保するために第一音楽室と第二音楽室の二箇所に分ける。 ○様々な楽器の組み合わせを試奏させ、グループで話し合いながら音楽を作らせる。 
まとめ 10分	5 具体的な発表時のイメージをもつ。	【全体】	●各楽器の音色や旋律の響きなどを感じながら、パートの重ね方や楽器の演奏の仕方を工夫している。 【思・判・表①③】
	6 本時の振り返りを行う。 ・先生達の動画を見て、アイコンタクトをしようと思った。 ・木琴パートになったけれど、まだうまく演奏できないので他のパートの音と合わせられるように繰り返し練習をしたい。	【個人】 ・ワークシート	○教員が演奏した動画を視聴させ、発表の方法や演奏の工夫のイメージをもたせる。 ○グループで協力したことや、今後頑張りたいことを記入させる。 

※波線はキャリア教育の視点

7 板書計画

リボンのおどり	
めあて	グループで相談し、音の重ね方を考えよう
本日の流れ	重ね方一覧
	だんだん大きく
	だんだん小さく
グループの目標を考えよう	
↓	
音の重ね方を考えよう	リレー
(色々なパターンを試みましょう)	サンドウィッチ

8 実践を終えて

成果

- ・各グループに楽器を準備したことで音の重ね方のパターンを繰り返し試奏することができた。その結果、興味・関心をもちながら学習に取り組み、「課題対応能力」を高めることができた。
- ・ワークシートに話合いの流れを提示したことで、リーダーを中心に円滑に話合いを進めることができ、活発に意見交換する姿が見られた。また、楽器ごとの演奏の難易度、パートの重要度を提示したことで、判断基準が明確となった。その結果、自分の思いだけでなく、グループ全体のことを考えた役割分担を行うことができた。「集団の中の自分」の役割を自覚させる上では、効果的な手立てとなり、「人間関係形成・社会形成能力」の伸長につながった。
- ・複数の教室を使用可能としたことで、好きなタイミングで試奏を開始することができた。周りの音を気にすることなく、自分たちの音に集中することができていた。自分たちが考えたイメージの音やリズムをすぐに試奏できる環境は、音楽作りの活動をより豊かにするとともに、自己の課題に対して向き合う場になっていた。

課題

- ・グループによっては、なかなか話合いが進まず、試奏の時間を十分に確保することができていなかった。「目標を考える時間」と「試奏の時間」を連続した活動として行わせるのではなく、教師が目安の時間を伝え、活動時間を区切る必要があった。